| 科目名（英） | インフォメーションテクノロジーⅠ<br>（ Information Technology ） | 必修選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 小野寺幸子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・専攻 | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 演習 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>月曜日・1時限 | 前期 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 株式会社日立製作所で営業・インストラクターを経て、東北六県で企業、役所、自衛隊、専門学校、短大ほかでパソコンの研修を担当 |
| 授業の学習内容 | 社会に通用する仕事のツールとしてコンピュータは必須です。<br>Word、Excelの基本操作はもちろん、PowerPointでの発表の場も業種問わず増えています。スマホやタブレットの慣れからキーボードが使えない人がいる現状の中、パソコンの基礎は一番大事です。<br>簡単な案内文書からチラシやポスター作りへの応用、またExcelの表を自在にグラフ化など操作、編集できるようにする。<br>Power Pointでは、スライドを思い通りに作成し、様々な場面で自分を表現できるように力をつけていく。<br>授業を通じて3つのアプリケーションの最低限の基礎をしっかりと使えるようになってほしい。 |
| 到達目標 | 10分間タイピング　400字以上入力できる.<br>Wordで仕事で通用するように効果的な文書が30分程度で作成できる。<br>Excelを使用して表からグラフ化まで作成できる。<br>Power Pointを使用して明確に自分の伝えたいことをスライドに表現ができようにする。 |
| 評価方法と基準 | 1）定期試験：Word50%（社外文書が60分以内で作成できるか評価）<br>PowerPoint30%（与えられたテーマを盛り込みスライド5枚で表現できるか評価）<br>2）態度・提出物：20%（授業内での課題の取り組みで評価） |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | 演習 | PCの基本操作とアプリの起動ができる<br>タイピング、ダウンロード確認 | |
| 2 | | 演習 | 第1章 文書の効率の良い編集をすることができる<br>（オートフォーマット、書式設定） | |
| 3 | | 演習 | 第2章 便利な機能の使い方、基本文書の作成が作成できる | 第2章復習問題 |
| 4 | | 演習 | 第3章 オブジェクト（画像、図形）を活用した文書作成ができる | 第3章復習問題 |
| 5 | | 演習 | 第5章　簡単な表が作成できる | プリント課題提出 |
| 6 | | 演習 | 第1章 Excel基本操作、入力、範囲選択、保存ができる | |
| 7 | | 演習 | 第2章 数式と基本の関数、書式設定ができる | 第3章復習問題 |
| 8 | | 演習 | 第4章 グラフ機能（棒グラフと円グラフ）で表現できる | 第4章復習問題 |
| 9 | | 演習 | Excelのまとめ　課題作成 | 課題提出 |
| 10 | | 演習 | PowerPointの基本操作、作成、編集ができる | プリント演習 |
| 11 | | 演習 | オブジェクトの挿入、アニメーション、画面切り替えを使いこなすことができる | |
| 12 | | 演習 | テーマ課題作成実習 | PowerPoint演習問題課題① |
| 13 | | 演習 | 前期まとめ・teamsへアップロード確認 | |
| 14 | | 演習 | 後期本試験　Wordでの文書作成テスト | |
| 15 | | 演習 | テーマ課題作成・teams提出 | 10分タイピングテスト |
| 準備学習　時間外学習 | | | 演習問題等で操作を復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

株式会社滋慶出版　COMPUTER BASIC WORD2019、Excel2019

| 科目名<br>（英） | キャリアデザインⅠ<br>（Career Design Ⅰ） | 必修<br>選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業<br>形態 | 演習 | 総時間<br>（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、愛玩動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | クラス全体での情報共有の場とし、チームワーク・結束力を高める<br>キャリア形成のために必要な社会人としての基礎を身につける |
| 到達目標 | ・人の気持ちを理解できる、相手を思いやり行動できるようになる<br>・「報・連・相」の大切さを理解し、実践できるようになる |
| 評価方法と基準 | 授業内評価：60%　テスト：40% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 4月10日 | 講義 | 自己紹介/学生としての心構えが理解できる | 復習 |
| 2 | 4月24日 | 〃 | ITリテラシーについて理解できる | 〃 |
| 3 | 5月8日 | 〃 | 見学実習の準備が理解できる（那須ガイダンス） | 〃 |
| 4 | 5月22日 | 〃 | 演習の準備が理解できる（羊毛刈りガイダンス） | 〃 |
| 5 | 5月29日 | 〃 | 見学実習・演習振り返り | 〃 |
| 6 | 6月12日 | 〃 | レポートの書き方を理解できる | 〃 |
| 7 | 6月19日 | 〃 | レポートを作成することができる | 〃 |
| 8 | 6月26日 | 〃 | イベントの企画について理解できる | 〃 |
| 9 | 7月3日 | 〃 | イベントを主体的に運営できる | 〃 |
| 10 | 7月10日 | 〃 | 個人毎に自己評価・目標設定ができる | 〃 |
| 11 | 7月17日 | 〃 | 口頭発表の難しさと工夫の必要性を理解できる | 〃 |
| 12 | 7月24日 | 〃 | 夏休みの過ごし方を考え、目標が立てられる | 〃 |
| 13 | 8月21日 | 〃 | 夏休みの振り返り | 〃 |
| 14 | 8月28日 | 〃 | テスト | 〃 |
| 15 | 9月4日 | 〃 | 半期振り返り・まとめ | 〃 |
| 16 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | エコロジー概論<br>（Introduction to eEcology・Related Laws and Regulation） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 髙山　清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 15<br>（ 1 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 後期<br>火曜日　1限 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 世界の環境問題　生物の減少　森林の減少<br>海洋汚染　地球温暖化　暮らしとエネルギー　生活とゴミ<br>食生活　動物園と水族館の環境　動物病院とペットショップ　牧場と山里 | | | | | | |
| 到達目標 | 日常的に自然と環境に対して配慮できるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験：100% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 世界の環境問題に関して理解できる<br>野生生物の減少について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 森林の減少　熱帯林の減少について理解できる<br>地球温暖化の原因について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 海洋汚染　大切な海について<br>青い星がにごり始めた原因を理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 暮らしとエネルギー・食生活・<br>生活とゴミについて理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物園と水族館の環境ズーストック計画<br>牧場・山里の環境について理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | すべては自分とつながっており、環境問題は他人事ではないことを理解できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 9 | ／ | | | |
| 10 | ／ | | | |
| 11 | ／ | | | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

「次世代のための環境教育　株式会社滋慶出版」

| 科目名（英） | アニマルヒストリー・アニマルベーシック<br>(History of Animals and Human/Basic Animal Study ) | 必修選択 | 必修選択 | 年次 | 1 | 担当教員 | 髙山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 30<br>1 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、ブルークロス動物病院院長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ＜アニマルベーシック＞動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的としている。<br>＜アニマルヒストリー＞動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | ＜アニマルベーシック＞この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。<br>＜アニマルヒストリー＞この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業内評価：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒・滅菌を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | ズーノーシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物の進化とゲノムDNAの進化を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる基としての倫理を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | ペットビジネスの種類を説明できる。環境を守る観察と観光について知識を深める。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物介在療法（AAT）と動物介在活動（AAA）、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスを説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 牧羊犬、警察犬、救助犬身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | BSE問題、鳥インフルエンザ、日本の食料自給率、動物愛護問題を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 16 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

「ECO業界で役立つ基礎生物　株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー　株式会社滋慶出版」

| 科目名（英） | 動物形態機能学Ⅰ<br>（ Animal Form Function Ⅰ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 小野裕之 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 岩手大学農学部連合大学院卒業後動物病院勤務を経て小野動物病院開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 動物形態機能学総論 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 生物学の復習① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 生物学の復習② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 生物学の復習③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物の体の機能① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物の体の機能② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 循環器①　心臓 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 循環器②　心電図、心臓機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 循環器③　血管の種類、構造、機能、血圧 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 呼吸器①　呼吸器の成り立ちと構造 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 呼吸器②　外呼吸、内呼吸 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 呼吸器③　酸素の移動、二酸化炭素の運搬 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 消化器①　消化器の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 消化器②　口腔期間と働き | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 15 | ／ | 試験 | 試験、振り返り | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物形態機能学Ⅰ<br>（ Animal Form Function Ⅰ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 小野裕之 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 岩手大学農学部連合大学院卒業後動物病院勤務を経て小野動物病院開業 |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようにする |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 消化器③　胃・小腸・大腸の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 消化器④　膵臓・肝臓の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 内分泌①　内分泌の定義、ホルモンの特徴 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 内分泌②　分泌している器官、フィードバック調節 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 内分泌③　ホルモンの作用と標的器官 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 内分泌④　内分泌臓器の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 泌尿器①　泌尿器系の成り立ちと構造 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 泌尿器②　腎臓の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 泌尿器③　クリアランス | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 泌尿器④　電解質バランス、酸・塩基平衡 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 感覚器①　眼・耳の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 感覚器②　体性感覚（皮膚感覚） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 感覚器③　特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、臭覚、味覚） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物行動学<br>（ Science of Animal Behaviour ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 佐藤美月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、出張ドッグトレーニングBuddy DOG　主宰 |
| 授業の学習内容 | 飼い主とより密接に関わる職業に就く人が、犬・飼い主双方に寄り添ったしつけの知識・技術を身につけられるように、犬の生態や行動学をベースに現代に多い犬の悩みや犬が人間社会で暮らすための知識、カウンセリング能力を身につける。 |
| 到達目標 | ・犬を理解する（生態・行動学）<br>・行動学をポジティブトレーニングへ応用する<br>・人と犬が共生する上で大切なことを理解する<br>・カウンセリングの大切さを学び、実践することが出来る |
| 評価方法と基準 | 1）授業内の定期的な小テスト60%、レポート20%、出席率20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義・実技 | 犬と接するにあたり、大切なことを理解し、犬の特徴を見極めることができる | 講義範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義・実技 | 犬のボディーランゲージの観察ができる | 講義範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 犬の行動力、生態について説明できる | 講義範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 犬の学習理論とトレーニングを結び付けて考えることができる | 講義範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | ポジティブトレーニングについて理解することができる | 講義範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 家庭犬にオビディエンスが必要な理由を理解し、トレーニングに入るまでの準備 | 講義範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 実技 | ポジティブトレーニングを使用したオビディエンスが実践できる | 講義範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義・実技 | ・家庭犬に必要なマナーの知識<br>・ポジティブトレーニングを使用したオビディエンスが実践できる | 講義範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義・実技 | ・家庭犬に必要なマナーの知識<br>・ポジティブトレーニングを使用したオビディエンスが実践できる | 講義範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義・実技 | ・現代に多い犬の悩みを理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義・実技 | ・現代に多い犬の悩みを理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | パピー期について理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | パピー期について理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 講義 | お悩み相談ーカウンセリング技術を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 15 | ／ | 講義 | 聞く力を身に付ける | 講義範囲の予習と復習 |
| 16 | ／ | 講義・実技 | カウンセリングを実践できる | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 愛玩動物・適正飼養関連法規Ⅰ<br>（Animal Welfare and Breeding Regulations Ⅰ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 髙山 清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 15（1） | 開講区分 曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 |
| 授業の学習内容 | 動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。 |
| 到達目標 | ・愛護・適正飼養の概念の基本を理解する。<br>・愛護・適正飼養関連行政法規の概要について理解する。<br>・社会福祉行政・環境衛生法規の概要について理解する。<br>・野生動物等に関する法律および条約について理解する。 |
| 評価方法と基準 | 筆記試験：100% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）の目的・構成・概要① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）の目的・構成・概要② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）の目的・基準や規格・管理 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 社会福祉行政・環境衛生法規（身体障害者補助犬法） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 社会福祉行政・環境衛生法規（廃棄物処理法・化製場等に関する法律） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 野生動物などに関する法律および条約（外来生物法・種の保存法・鳥獣保護管理法・ワシントン条約・ラムサール条約等） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 解説 | |
| 9 | ／ | | | |
| 10 | ／ | | | |
| 11 | ／ | | | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物看護学概論（ Animal Nursing ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 髙山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物看護の歴史と定義や動物看護に関する基礎知識を理解することを目的としている。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物看護学概論の知識を身につけることにより、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 歴史上にみる獣医療の歴史を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 日本国内の獣医療の歴史を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 動物看護の概念を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 動物看護の本質を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 「看護」の歴史と定義を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物看護の対象と目的を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 日本国内の動物看護師の軌跡を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 資格化に向けての動きと軌跡を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 動物看護師の職域と現状を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 欧米の動物看護師の職域との相違を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物看護師に求められる視点と能力を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 動物看護師の診療時における役割を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 動物看護師としての必要な知識を説明できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物感染症学<br>（ Animal Infection ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木莉紗<br>宍戸 恵 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 90<br>（ 6 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | | | | | | |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主に犬、猫の感染する寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護について実践できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | ウィルス学総論：分類、大きさ・構造、増殖・感染・変異・伝播 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 細胞学総論：分類、大きさ・形態・構造、増殖・代謝、遺伝子、感染・発症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 真菌学総論：分類・特徴、増殖の要因と様式、種名、人畜感染症としての真菌 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | プリオン総論、微生物検査法：バイオセーフティ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 微生物検査法：滅菌と消毒、ウィルス検査法、細菌検査法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 微生物検査法：真菌検査法、プリオン病の検査・診断法、薬剤感受性試験 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 感染防御に関わる免疫と予防・治療：感染症と病原体及び生体防御機構 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 予防としてのワクチンとワクチネーション、抗ウイルス薬と抗菌薬、感染症としての制御・制圧 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 農林水産省行政による動物感染症対策、動物由来感染症対策、地方行政による口蹄疫、膠原病性鳥インフルエンザ、伝達性海綿状脳症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 感染症学各論　犬と猫の感染症：ウィルス病 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 感染症学各論　犬と猫の感染症：ウィルス病 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 感染症学各論　犬と猫の感染症：細菌病 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 感染症学各論　犬と猫の感染症：細菌病 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物感染症学<br>（ Animal Infection ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 90<br>（ 6 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 |
| 授業の学習内容 | 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。 |
| 到達目標 | 主に犬、猫の感染する寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護について実践できるようになる。 |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80%　授業態度と参加度:20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 産業動物の感染症、ウィルス病 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 細菌病・プリオン病:スクレイピー、牛海綿状脳症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 実験動物の感染症:ウイルス病、細菌廟 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | エキゾチックペットと野生動物の感染症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物寄生虫学総論 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 原虫の分類、形態、生活環及び主な内部寄生虫症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 轜虫の分類、形態、生活環及び主な内部寄生虫症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 衛生動物の分類、形態、生活環及び主な内部寄生虫症 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 駆虫薬や駆除薬の使用法。消毒法と滅菌法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 寄生虫症の診断と検査:虫体の固定、保存、染色法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 糞便内原虫検査法、虫卵培養法、免疫診断法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 糞便内蠕虫検査法、血液検査法、遺伝子診断法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | まとめ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 講義 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 公衆衛生学Ⅰ<br>（Public Morality Health Ⅰ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 髙山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（2） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 |
| 授業の学習内容 | 疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。 |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。 |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 公衆衛生の概要を把握する。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 動物のよい飼育環境を理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | ①環境衛生について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | ②環境衛生について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 疾病の定義について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 防疫について、実践できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | ①消毒のしくみについて理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | ②消毒のしくみについて理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | ①病原体について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | ②病原体について理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | ワクチンの仕組みについて述べることができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | ①ズーノーシスを理解することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | ②ズーノーシスの予防を実践することができる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 16 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物内科看護学<br>（ Animal Internalmedicine Nursing ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木　莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 90<br>（6） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採決、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録などについて理解する | | | | | | |
| 到達目標 | 健康管理や各検査の目的や意義を理解し、正確に行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 健康の保持と増進<br>健康診断の意義、健康診断の内容と目的 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 診察における愛玩動物看護師の役割、診察室の準備と衛生管理、動物種ごとの適切な接し方 | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 保定の基本的な原理、目的、方法、身体検査・アセスメント項目 | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 検査・処置に必要な技術（注射器の取扱い及び管理方法、採血の目的と方法、採尿の目的と方法） | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 検査・処置に必要な技術（穿刺と吸引、カテーテル導尿） | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 検査・処置に必要な技術（各種カテーテル挿入、酸素吸入、マイクロチップ挿入） | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 投薬に係る技術（薬の処方について、内服薬の使用法、薬剤の注射法） | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 外用薬の使用法、薬浴の実施法、投薬前後の注意事項 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 採血・注射時の保定法、要因、採血・注射実施時の注意点、トラブル発生の対処法 | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 静脈注射と動脈注射、用意する器具、採血の手順、犬・猫の採決部位と保定、採血手順 | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 注射準備、皮下投与、筋肉内投与、皮内投与、静脈内投与、留置針の留置、その他の投与方法 | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 輸液の目的、適応とリスク、輸液製剤の準備（種類と調合、目的別輸液製剤）、輸液製剤の決定 | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 輸液で準備する者、留置針装着、輸液の準備（輸液セット、輸液ポンプなど）輸液中の管理、注意点 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | ／ | | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物内科看護学<br>（ Animal Internalmedicine Nursing ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木　莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 90<br>（6） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採決、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録などについて理解する | | | | | | |
| 到達目標 | 健康管理や各検査の目的や意義を理解し、正確に行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 輸血療法の目的と現状、輸血計画とインフォームド・コンセント、輸血用血液の確保と各種検査 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 輸血の準備（献血採血、血液分離、血液製剤の種類、輸血時の必要器材、輸血量の計算・輸血速度の設定）、輸血中の看護 | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 心電図検査とは、心電図検査の適応、心電図でわかること、わからないこと、基本的な理論、心電計の種類 | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 心電図検査のための予備知識、心電図の読み方、心電図の手順 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 血圧の基本的概念、血圧測定の適応、血圧の測定方法、臨床現場で使用される血圧計 | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 推奨される血圧測定の技術、再現性のある安定した測定値を得るための確認事項、高血圧症と心疾患 | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | X線検査撮影装置の種類、放射線に関する知識、放射線防御、撮影のための予備知識 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | X線撮影にあたって、ポジショニングと保定、造影X線検査、現像、CT検査、MRI検査 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 超音波検査の基礎、超音波診断装置とプローブ、超音波の強さと表示画像、表示モード | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 検査の手順、準備、使用するプローブと検査時の保定、基本的な臓器の正常像、検査後の片づけ | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 内視鏡に関する知識（歴史、種類、診断と治療に用いられ内視鏡） | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 消化器内視鏡の予備知識（特徴、検査の目的、麻酔、絶食、適用、器具の取扱い） | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 内視鏡検査の手順（準備部、保定、内視鏡を挿入する前に、挿入と検査の補助、検査後の片づけ） | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | ／ | | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物内科看護学<br>（ Animal Internalmedicine Nursing ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木　莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 90<br>（6） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採決、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録などについて理解する | | | | | | |
| 到達目標 | 健康管理や各検査の目的や意義を理解し、正確に行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 循環器系の検査（カルテスラの情報収集、問診、聴診、触診） | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 循環器系の検査（心電図検査、血圧測定、胸部エックス線検査、心臓超音波検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 呼吸器系の検査（視診、聴診、問診、エックス線検査、内視鏡検査、CT・MRI検査、超音波検査、その他） | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 口腔系の検査（口腔内全体・特定の疾患を評価するための検査）、消化器系（食堂・胃・腸の検査、肝臓・胆嚢の検査、膵臓の検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 腎泌尿器系の検査（身体検査、尿検査、血液検査、エックス線検査、超音波検査）、内分泌系検査（視診、血液検査、画像検査、尿検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 生殖器系の検査①（視診、触診、直腸検査、超音波検査、血液検査、尿検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 生殖器系の検査②（微生物検査、エックス線検査、内視鏡検査、精液検査、膣スメア検査、病理組織学的検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 運動器系検査（跛行の評価、整形外科的な触診、画像診断、その他） | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 神経学的検査（脳神経の検査法、評価記録法） | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 眼の検査（視診、視覚検査、涙液量検査、眼圧検査、スリットランプ検査、眼底検査、生体染色検査、超音波検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 皮膚と耳の検査（皮膚病変の観察、皮膚科検査、皮膚糸状菌症の検査方法、外耳道の検査方法） | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | アレルギー・免疫系の検査（視診、血液検査、IgE検査、リンパ球反応検査、除去食検査、クームス試験、抗核抗体検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 血液・造血器の検査（視診、触診、血液検査、FNA検査、生検、免疫染色、PCR検査、血液凝固検査、骨髄検査） | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | ／ | | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物医療コミュニケーション<br>（ Animal medical Communications ） | 必修選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習 | 総時間（単位） | 30<br>（2） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 日常健康管理に関わる会虫教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | これまでに学習した専門知識を活用し、健康維持・適性飼養の啓発と個人に応じたご家族教育・指導を通じて、ヒトと動物のよりよい共生を目指し、示例を用いて説明できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　60%<br>授業内評価40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | クライアントエデュケーション概論を理解することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 家庭で行われる健康管理と医療現場で行われる健康管理を理解することができ | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義・演習 | しつけ・日常の健康チェックについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義・演習 | 人獣共通感染症について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義・演習 | 狂犬病について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義・演習 | 犬・猫の混合ワクチンについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義・演習 | 犬糸状虫（フィラリア症）について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義・演習 | ノミ・マダニ予防について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義・演習 | 不妊・去勢手術について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義・演習 | 外来及び電話対応方法とクレームの対処方法について理解し、説明することが | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 院内コミュニケーションの必要性について理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 院内マネジメント、スタッフのメンタルヘルスについて理解し、説明することができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | グリーフケアの方法、展開について理解し、説明することが出来る | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 愛玩動物学<br>（ Pet Animal Studies ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 横山茜 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、ドッグスクール勤務を経て動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理法について理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 様々な動物の特性と人との関りを理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%　授業態度と参加率20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛手入れについて理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛手入れについて理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛手入れについて理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛手入れについて理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 血統と血統書について理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態について理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 使役動物の歴史と福祉について理解する（補助犬、その他の使役犬） | 講義範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 愛玩動物の飼養管理（犬の適切な飼養管理方法）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 愛玩動物の飼養管理（猫の適切な飼養管理方法）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 愛玩動物の飼養管理（愛玩鳥の適切な飼養管理方法）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物の基本的な取り扱い（安全な散歩・運動・ふれあいの意義）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 動物の基本的な取り扱い（基本的なグルーミングの目的と方法）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 動物の基本的な取り扱い（適切な飼養換気用やストレスの緩和）を理解する | 講義範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 講義範囲 | 試験範囲の復習 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

DVDを見るためのTV,デッキ

| 科目名（英） | 愛玩動物学<br>（ Pet Animal Studies ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 横山茜 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、ドッグスクール勤務を経て動物系専門学校専任教員 |
| 授業の学習内容 | 愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理法について理解する。 |
| 到達目標 | 様々な動物の特性と人との関りを理解する |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%　授業態度と参加率20% |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | エキゾチックアニマルとは | 講義範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、ウサギ | 講義範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、フェレット | 講義範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、ハムスター | 講義範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、モルモット | 講義範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、デグー | 講義範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、フクロモモンガ | 講義範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、チンチラ | 講義範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、ハリネズミ | 講義範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、カメ | 講義範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、フタアゴヒゲトカゲ | 講義範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、ヒョウモントカゲモドキ | 講義範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 代表的なエキゾチックアニマルの種類と特徴、生態、コーンスネーク | 講義範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 講義範囲 | 試験範囲の復習 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

DVDを見るためのTV,デッキ

| 科目名（英） | 人と動物の関係学<br>（ Study of Human-Animal Bond） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 横山昌美 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後ドッグスクール勤務、動物病院勤務（臨床経験13年） | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係をと心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含め理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 動物介在活動(AAA)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 動物介在活動(AAA)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物介在療法(AAT)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物介在療法(AAT)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 動物介在教育(AAE)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 人と動物との絆(HAB)を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物内科看護学実習<br>（ Animal Internal Medicine Nursing Practice ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木　莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 120<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬猫を中心に健康管理や予防法、主にみられる疾患について学ぶ。<br>各検査に必要な手技や機器の扱い方などを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 犬猫の健康管理や予防法、主な疾患の症状、検査法、治療法を理解する。<br>各検査の目的や意義を理解し、正確に検査を行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　　20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義・実習 | 犬猫の健康管理について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義・実習 | 狂犬病について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義・実習 | ワクチネーションプログラムについて理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義・実習 | フィラリアについて理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義・実習 | 内部寄生虫について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義・実習 | 内部寄生虫について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義・実習 | 下痢について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義・実習 | 嘔吐と吐出について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義・実習 | 泌尿器系の疾患について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義・実習 | 泌尿器系の疾患について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義・実習 | 熱中症について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義・実習 | 外部寄生虫について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義・実習 | 歯周病について理解できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物内科看護学実習<br>（ Animal Internal Medicine Nursing Practice ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木　莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 120<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の基本的な扱いができる。<br>身体検査ができる。<br>診療補助ができる。<br>輸液・輸血に係る業務ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　　20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 演習 | 動物の基本的な扱い。ハンドリング、散歩・運動、飼育環境の整備 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 演習 | 全身チェック、バイタルチェックを行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 演習 | 全身チェック、バイタルチェックを行うことができる、歯磨きを行うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 演習 | 診療補助：診察準備や診察室の衛生管理 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 演習 | 診察補助：動物種による適切な保定法の確認と実践 | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 演習 | 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 演習 | 採血・採尿の手順を学ぶ。 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 演習 | 採血・採尿の手順を学ぶ。 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 演習 | 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得する。 | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 演習 | 輸液の意味、必要性、輸液剤の種類 | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 演習 | 留岡針設置の手順を修得し、準備・補助 | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 演習 | 輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸液ルートの準備、手順 | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 演習 | 針のゲージ、種類の確認と輸液・輸血中の動物の管理 | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | ／ | 演習 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物愛護・適正飼養実習Ⅰ<br>（ Animal Weifare and Breeding Practice Ⅰ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、愛玩動物看護師資格所持、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞診、心電図検査、エックス線検査、超音波検査、皮膚検査などができるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 実習 | 動物種に応じた安全なハンドリングができる | |
| 2 | ／ | 実習 | 動物を安全に散歩・運動させることができる | |
| 3 | ／ | 実習 | 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる | |
| 4 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 5 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 6 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 7 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 8 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 9 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 10 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 11 | ／ | 実習 | 動物の飼養環境を適切に整備できる | |
| 12 | ／ | 実習 | 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる | |
| 13 | ／ | 実習 | 動物の適切な飼養方法について指導できる | |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名<br>(英) | 動物看護総合実習Ⅰ<br>( Practical Training Ⅰ ) | 必修<br>選択 | 選択必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業<br>形態 | 講義・演習 | 総時間<br>(単位) | 30<br>(1) | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、電話対応、問診、カルテの作成、整理など主に受付業務を中心に必要な知識、技術を身につける。また、医療チームの一員としての言動、立場に対する責任感を認識する。<br>さまざまな職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。 |
| 到達目標 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践できる。 |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 50%<br>【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、研修日報: 50% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 実習オリエンテーション<br>「動物看護総合実習」の概要・目的を理解できる。 | 実習準備 |
| 2 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>学んだことをもとにレポートを作成できる | 実習内容のまとめ |
| 7 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>レポートをもとに学内で報告することができる | |
| 8 | ／ | | | |
| 9 | ／ | | | |
| 10 | ／ | | | |
| 11 | ／ | | | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名<br>(英) | キャリアデザインⅡ<br>( Career DesignⅡ ) | 必修<br>選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業<br>形態 | 講義 | 総時間<br>(単位) | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、愛玩動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 学校での校内講義、および校外講義を実施し、職業人教育を通し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。<br>また個人での取り組みや、グループでの取り組みを行い、主体性を身につける。 |
| 到達目標 | 個人及びグループ内でお客様や展示を考慮し、ニーズに合わせた企画、発表ができる。<br>企業の取り組みについて、理解する。 |
| 評価方法と基準 | 試験30%、取り組み状況・課題提出20%、出席50% |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月10日 | 講義 | キャリアサポートアンケート、<br>ITリテラシー | |
| 2 | 4月24日 | 講義 | クラスノームについて、インターシップについて | |
| 3 | 5月8日 | 講義 | ZOOMの使い方　関西実習について | 事前にZOOMインストール、パソコン持参 |
| 4 | 5月15日 | 講義、演習 | 楽天球場観戦 | |
| 5 | 5月22日 | 講義、演習 | 学園祭準備(クラスマネジメント、ブレインストーミング) | パソコン持参 |
| 6 | 6月5日 | 講義、演習 | 学園祭準備(クラスマネジメント、企画・準備 | パソコン持参 |
| 7 | 6月12日 | 講義、演習 | パッキング練習　POP作成(アクアルーム) | |
| 8 | 6月19日 | 講義、演習 | パッキング練習　POP作成(アクアルーム) | |
| 9 | 7月3日 | 講義、演習 | 体感型推理ゲーム(クラスマネジメント) | |
| 10 | 7月10日 | 講義、演習 | POP作成　水族館のチラシなど | |
| 11 | 7月17日 | 講義 | 性格診断 | |
| 12 | 7月24日 | 講義 | 性格診断でチーム分けして水族館研究 | |
| 13 | 8月21日 | 講義 | DXリテラシー、担任とっておき講座Ⅰ | 資料 |
| 14 | 8月28日 | 講義 | 担任とっておき講座Ⅱ、<br>テスト前ふりかえり | 資料 |
| 15 | 9月4日 | 講義 | テスト | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 生命倫理・動物福祉<br>(Bioethics/Animal welfare) | 必修選択 | 選択必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 高山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 30<br>（2） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考えかたについて学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）を理解し、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 動物福祉と愛護の違いを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 動物福祉の概念、歴史を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 西欧と日本における動物福祉の変遷を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 日本における動物福祉の考え方を知る | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物愛護管理法の意味、目的、概要を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 産業動物の福祉　5つの自由の成り立ちと定義を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 5つの自由の実践を考える | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 実験動物の福祉　3つのRの成り立ちと定義を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 3つのRの実践を考える | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 安楽死について定義を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 生命倫理について意味、4原則について知る | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 飼育動物の災害時の対応について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 同伴避難について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物形態機能学Ⅱ<br>（ Animal Form Function Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 小野裕之 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 岩手大学農学部連合大学院卒業後動物病院勤務を経て小野動物病院開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 神経①　神経の成り立ちと構造 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 神経②　ニューロン、シナプス伝達、中枢神経 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 神経③　大脳、小脳、脳幹 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 神経④　脊椎の構造と機能、体性神経 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 神経⑤　自律神経の構成と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 運動器①　骨格系の成り立ちと構造、機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 運動器②　軸骨格（頭骨、椎骨、肋骨、胸骨） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 運動器③　付属肢骨格、内臓骨格 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 運動器④　関節の構造と働き | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 運動器⑤　骨格筋の構造と収縮機序 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 皮膚①　皮膚の組織構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 皮膚②　皮膚の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 皮膚③　付属器の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物形態機能学Ⅱ<br>（ Animal Form Function Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 小野裕之 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 岩手大学農学部連合大学院卒業後動物病院勤務を経て小野動物病院開業 |
| 授業の学習内容 | 動物の体のしくみを理解し、知識や行動につなげ、体の構造を理解する |
| 到達目標 | この科目を受講して、学生が動物の体のしくみを理解し、飼育の知識と行動を行うことが出来るようにする |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 血液①　骨髄と血液の関連、血液の成り立ちと機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 血液②　血球成分と血漿成分、赤血球の構造と機能 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 血液③　白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機序及び線維素溶解 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 生体の防御機構①　自然免疫 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 生体の防御機構②　獲得免疫 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝①　歯の分類と数、舌の形と働き、咽頭と嚥下 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 消化吸収と栄養代謝②　胃・腸の働き | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝③　炭水化物・タンパク質・脂肪の消化と吸収 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝④　代謝総論 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝⑤　三大栄養素の分子のしくみ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝⑥　代謝経路 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 消化吸収と栄養代謝⑦　ビタミン・ミネラル | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | まとめ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物繁殖学<br>（ Breeding physiology ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の体の構造と機能を理解し、主に犬猫の生殖器のしくみや性周期・交配と出産のメカニズムについて説明できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80%　授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 雌雄の生殖器の形態と機能について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 性成熟と発情周期について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 発情兆候・スメアについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 卵巣周期と精子について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 性ホルモンについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 授精・着床について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 妊娠期間・妊娠中の管理について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 妊娠診断について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 出産までの準備について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 出産の流れを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 難産・助産について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 新生子の管理について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 遺伝様式・遺伝疾患について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物栄養学<br>（ Animal Dietetics ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する | | | | | | |
| 到達目標 | 動物業務に必要になる栄養学の知識を修得する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 栄養と栄養素について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 消化と吸収・代謝について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 5大栄養素（炭水化物）について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 5大栄養素（タンパク質）について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 5大栄養素（脂質）について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 5大栄養素（ビタミン・ミネラル）について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 水について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 栄養素についてのふりかえりとまとめ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | エネルギーについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 与えてはいけないものについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 食欲を上げる工夫について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 肥満と食事管理について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 前期授業の復習とまとめ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物栄養学<br>（ Animal Dietetics ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 鈴木莉紗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後、2009年～動物病院に動物看護師として勤務後動物系専門学校専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する | | | | | | |
| 到達目標 | 動物業務に必要になる栄養学の知識を修得する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | ペットフードの分類について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | ペットフードの表示について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | ペットフード安全法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | ペットフードの製造工程について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | ペットフードの特徴について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 手作り食とペットフードの違いを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 手作り食での注意点を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 様々な疾患時の食餌療法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 療法食の特徴や効果を理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 療法食の特徴や効果を理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 療法食の特徴や効果を理解する③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 強制給餌について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 後期授業のまとめ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物病理学<br>（ Animal Pathology ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 高山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する | | | | | | |
| 到達目標 | 発病のメカニズムと病理学的特徴を理解できるようにする | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80%　授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 病理学を学ぶ意味・病理解剖・検査の目的意義について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 変性と物質沈着、壊死・アポトーシスについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 細胞増殖のメカニズム、再生、器質化について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 過形成と肥大、萎縮と低形成について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 充血とうっ血、出血の原因・病態について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 虚血と梗塞、水腫、浮腫について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | ショックの原因、分類、病態について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 炎症の定義と特徴について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 炎症の分類、経過について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 腫瘍の定義と分類、原因と発生機序を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 腫瘍の転移と進行について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 先天異常について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 組織標本の作製法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物薬理学<br>（ Animal Pharmacology ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 髙山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物に使用される医薬品の分類・規制・保管、薬物動態、薬物の作用、投与方法、薬剤の形状、薬用量計算、各種薬物について学び、動物看護師として必要な薬理学の知識を理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物薬理学を学ぶことにより、動物病院における薬物の管理や準備等、日常的に動物看護師が行う業務に対する理解を深めることができるようになり、より安全な獣医療を意識できるようになることを到達目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験の結果（80%）に、授業態度と参加度（20%）を加味して評価する。 | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 薬物治療の概念と目的を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 医薬品の分類と法規が理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 薬物の動態学、薬物の分布を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 薬物の作用発現の機序、薬物の生体内変化の機序を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 薬物の投与方法と薬物発現を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 治療薬の薬物名、剤形を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | ①処方箋と調剤方法を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | ②処方箋と調剤方法を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 薬用量の計算手順（正確な体重測定、薬剤の有効成分量）を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 薬用量の計算手順（投与量の計算方法）を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 消毒法（消毒法と滅菌法）を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 抗菌薬の種類と作用機序を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 抗菌薬に対する耐性獲得・抗菌薬の残留を理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 公衆衛生学Ⅱ（Public Morality Health Ⅱ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 髙山清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30（2） | 開講区分 曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。 | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:80%　授業態度と参加度:20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 獣医公衆衛生について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 環境衛生と公衆衛生について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 人と動物が共生するために必要な公衆衛生について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 人獣共通感染症について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 人獣共通感染症（回虫症、疥癬）について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 人獣共通感染症（トキソプラズマ症、猫ひっかき病）について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 人獣共通感染症（サルモネラ症、エキノコックス症）について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 人獣共通感染症（狂犬病、オウム病）について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 動物病院内感染について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 伝染病の感染経路について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 伝染病の感染源、感染経路への対策について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 消毒について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 滅菌について理解できる。 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

「動物看護の教科書　第3巻　緑書房」

| 科目名（英） | 動物臨床看護学総論<br>（ Animal Clinical Nursing General ） | 必修選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 上出健太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 30<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 酪農学園大学獣医学部卒業後、動物病院等勤務を経て南相馬アニマルクリニック院長（獣医師） | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①臨床に進む前の基礎を知り、今後の実習、インターンの際の知識を知る<br>基本的な臨床の常識を知り、自ら考え行動できるように促す | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト　60%<br>授業内評価　40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | チーム獣医療における動物看護師の役割を理解できるようにする | 基本的に復習を必要とします |
| 2 | | 講義 | | 反復しなければ質問することが出来ま |
| 3 | | 講義 | 動物の看護診断・計画・実践 | 時間外学習としては |
| 4 | | 講義 | | 各時間の演習課題に取り組むことで |
| 5 | | 講義 | そして、その評価方法を知り、理解す | 勉強の柱を築いていきます |
| 6 | | 講義 | 各ライフステージにおける健康管理方法を理解する | |
| 7 | | 講義 | | |
| 8 | | 講義 | 一日必要な水分量の計算が出来るようになる | |
| 9 | | 講義 | | |
| 10 | | 講義 | 急性期、回復期、慢性期の動物看護について、その病態の理解を行い、実際のを考える | |
| 11 | | 講義 | | |
| 12 | | 講義 | | |
| 13 | | 講義 | 終末期の動物看護について、患者さん、オーナーさんの気持ちを汲んで | |
| 14 | | 試験 | 試験 | |
| 15 | | 振り返り | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床看護学各論Ⅰ<br>（ Animal Clinical Nursing detailed exposition Ⅰ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 上手健太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（４） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 酪農学園大学獣医学部卒業後、動物病院等勤務を経て南相馬アニマルクリニック院長（獣医師） | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を学び、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 代表的な徴候（全身徴候）と看護技術を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 特異的徴候と看護技術を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 特異的病態と看護技術を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（循環器疾患・呼吸器疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（口腔疾患・消化器・栄養代謝性疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（消化器・栄養代謝性疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（腎泌尿器器疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（内分泌疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（生殖器疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（整形外科疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（神経疾患・眼疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する（皮膚疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 担がん動物の看護について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床検査学<br>（ Animal Clinical Examination ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 久田百恵 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 認定動物看護師。動物病院勤務、ペットサロン勤務を経て動物系専門学校講師として勤務を経て専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物病院に必要な知識を修習する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 臨床検査における動物看護師の役割 | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 糞便の一般性情、顕微鏡検査、検査法の種類 | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 採便法・顕微鏡検査の扱いについて | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 虫卵・原虫、細菌の検出法・観察 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 体質・食事内容の影響について | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 尿検査法の方法 | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 尿検査法の方法・カルテの記入法 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 尿の性情検査について理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 尿沈渣について理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 体質・食事内容のについて | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 血液検査について(血清・血漿) | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 血液検査について(抗凝固剤) | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 血液検査方法、CBCについて | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 適正飼養指導論<br>（ Proper Breeding Guidance theory） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 人と動物との関係を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 愛玩動物の適正飼養の目的、概念と愛玩動物の現状について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 愛玩動物飼育によって人間が受ける恩恵と問題点を理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 愛玩動物飼育によって人間が受ける恩恵と問題点を理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | ペットロスと反応 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | ペットロスと対象喪失に伴う悲哀の心理過程 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物取扱業者における適正飼養について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 愛玩動物とその飼い主の災害への備えを理解し、説明できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 災害獣医療の概要と課題を理解し説明できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 平常時と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 適正飼養指導論<br>（ Proper Breeding Guidance theory） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方を持ち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 動物愛護習慣の役割と実施状況について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 動物愛護習慣の役割と実施状況について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 犬や猫の引き取り及び負傷動物などの収容や処分の状況について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 犬や猫の引き取り及び負傷動物などの収容や処分の状況について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 動物の事故の内容と報告状況について理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 愛玩動物管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割を理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 愛玩動物管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割を理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 愛玩動物管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割を理解する③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 単元問題演習 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物形態機能学実習<br>（ Animal Form Function clinical practice ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 小野裕之 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（1） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 岩手大学農学部連合大学院卒業後動物病院勤務を経て小野動物病院開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物形態機能学で習得した知識の実践力を身につける | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 演習・実習 | 動物形態機能学実習概論　犬・猫の骨・筋・内臓のＩと相関関係を立体的に理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 2 | ／ | 演習・実習 | 動物形態機能学実習概論　犬・猫の骨・筋・内臓のＩと相関関係を立体的に理解する | 授業範囲の予習と復習 |
| 3 | ／ | 演習・実習 | 体位と方向を示す用語を知り、説明できる | 授業範囲の予習と復習 |
| 4 | ／ | 演習・実習 | 代表的な骨の名称と特徴 | 授業範囲の予習と復習 |
| 5 | ／ | 演習・実習 | 代表的な関節の名称と特徴、機能 | 授業範囲の予習と復習 |
| 6 | ／ | 演習・実習 | 代表的な骨格筋の名称と特徴、機能 | 授業範囲の予習と復習 |
| 7 | ／ | 演習・実習 | 内臓器官の配置、生殖器の雌雄差 | 授業範囲の予習と復習 |
| 8 | ／ | 演習・実習 | 顕微鏡各部位の名称、鏡検条件、操作方法、管理法 | 授業範囲の予習と復習 |
| 9 | ／ | 演習・実習 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察、スケッチ（甲状腺）、代表的な構造について機能との関係 | 授業範囲の予習と復習 |
| 10 | ／ | 演習・実習 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察、スケッチ（甲状腺）、代表的な構造について機能との関係 | 授業範囲の予習と復習 |
| 11 | ／ | 演習・実習 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察、スケッチ（肺）、代表的な構造について機能との関係 | 授業範囲の予習と復習 |
| 12 | ／ | 演習・実習 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察、スケッチ（肺）、代表的な構造について機能との関係 | 授業範囲の予習と復習 |
| 13 | ／ | 演習・実習 | まとめ | 授業範囲の予習と復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 今までの演習内容を行う |
| 15 | ／ | 講義・演習 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床看護学実習Ⅰ<br>（Animal Clinical Nersing Practical Traning Ⅰ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 上手健太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30（1） | 開講区分 曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 酪農学園大学獣医学部卒業後、動物病院等勤務を経て南相馬アニマルクリニック院長（獣医師） | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を学び、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 動物看護計画と動物看護記録について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 症状や入院・治療が動物と家族に及ぼす影響を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 看護動物への関りの内容・方法を立案できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物の看護上の問題・ニーズを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義・演習 | 入院動物の管理、アセスメントができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義・演習 | ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義・演習 | 栄養チューブの設置の準備や流動食の調整ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義・演習 | 褥瘡をもつ動物の看護ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床検査学実習<br>（ Animal Clinical Laboratory science Training ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 久田百恵 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 認定動物看護師。動物病院勤務、ペットサロン勤務を経て動物系専門学校講師として勤務を経て専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞診、心電図検査、エックス線検査、超音波検査、皮膚検査などができるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 実習 | 遠心分離機の使用方法、ヘマトクリット管の使用方法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 実習 | 採血、採決部位と保定法、手順 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 実習 | CBC検査の手技、実施手順の確認 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 実習 | ヘマトクリット管による検査、血漿、血清の分離 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 実習 | 血液塗抹標本の作製、ライト・ギムザ染色法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 実習 | 血液塗抹標本の作製、ライト・ギムザ染色法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 実習 | 白血球の百分比、血液生化学検査、簡易血清学的検査、クロスマッチ試験 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 実習 | 白血球の百分比、血液生化学検査、簡易血清学的検査、クロスマッチ試験 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 実習 | 尿検査と物理化学性状の記録、所見の記録 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 実習 | 尿検査と物理化学性状の記録、所見の記録 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 実習 | 糞便検査、採便法、顕微鏡検査法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 実習 | 糞便検査、採便法、顕微鏡検査法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 実習 | 細胞診の準備、補助 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床検査学実習<br>（ Animal Clinical Laboratory science Training ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 久田百恵 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 認定動物看護師。動物病院勤務、ペットサロン勤務を経て動物系専門学校講師として勤務を経て専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞診、心電図検査、エックス線検査、超音波検査、皮膚検査などができるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 実習 | 細胞診検査と病理組織検査 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 実習 | 遺伝子検査 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 実習 | 心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 実習 | エックス線撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 実習 | 放射線防護に必要な機材と着脱、現像手順とフィルム管理、crシステム | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 実習 | 超音波検査のしくみ、検査手順と検査前動物の準備と補助 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 実習 | プローブの種類と取扱いの注意、機械の準備と使用後管理 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 実習 | 神経学的検査、動作、反応、外見の観察、必要な器具の準備と保定、補助、結果記録の記入 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 実習 | 姿勢反応試験、脊椎反射試験、脳神経機能試験、知覚試験 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 実習 | 眼科検査、視覚検査、眼科神経学的検査、シルマー試験 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 実習 | 眼科検査、眼圧測定、眼底検査、フルオレセイン染色 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 実習 | 皮膚検査、毛検査、くし検査、テープストリッピング検査、培養検査等 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 実習 | 外耳道検査補助、必要な検査器材の準備と補助 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物愛護・適正飼養実習Ⅱ<br>（ Animal Weifare and Breeding Practice Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。 |
| 到達目標 | 細胞診、心電図検査、エックス線検査、超音波検査、皮膚検査などができるようになる |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 実習 | 動物種に応じた安全なハンドリングができる | |
| 2 | ／ | 実習 | 動物を安全に散歩・運動させることができる | |
| 3 | ／ | 実習 | 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる | |
| 4 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 5 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 6 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 7 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 8 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 9 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 10 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 11 | ／ | 実習 | 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる | |
| 12 | ／ | 実習 | 動物の飼養が困難になっている飼い主への支援が説明できる | |
| 13 | ／ | 実習 | 避難所等災害時の飼い主への支援が説明できる | |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名<br>（英） | 動物看護総合実習Ⅱ | 必修<br>選択 | 選択必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業<br>形態 | 講義・演習 | 総時間<br>（単位） | 60<br>（2） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、電話対応、問診、カルテの作成、整理など主に受付業務を中心に必要な知識、技術を身につける。また、医療チームの一員としての言動、立場に対する責任感を認識する。<br>さまざまな職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。 |
| 到達目標 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践できる。 |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価（各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント）： 50%<br>【学内】 学校での実習報告（レポートとレジュメ）、研修日報： 50% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 実習オリエンテーション<br>「動物看護総合実習」の概要・目的を理解できる。 | 実習準備 |
| 2 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>学んだことをもとにレポートを作成できる | 実習内容のまとめ |
| 11 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>レポートをもとに学内で報告することができる | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名 | ビジネスマナーⅡ | 必修選択 | 必修選択 | 年次 | 3 | 担当教員 | 関　雅人 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （英） | （ Business Manner Ⅱ ） | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 30<br>2 | 開講区分 | 前期 |
| 学科・専攻 | 動物看護師専攻 | | | | | 曜日・時限 | 木曜4限 |
| 教員の略歴 | 長崎大学大学院海洋生産科学研究科博士課程修了後、滋慶学園に就く。今年24年目を迎え、これまで教務部、キャリアセンターを経て、今年度より仙台ECO教務部長へ就任。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | タイトルは「ビジネスマナーⅡ」であるが、ビジネスマナーだけではなく卒業年度ということで就職活動に必要な情報、マナー、ルール、スキル、マインドを身につけることを目的とする。そのため、前半で就職活動に必要な情報、知識、スキルを、後半でビジネスマナーを学ぶ。<br>「ビジネスマナーは相手への配慮」のためのものであるが身につけたら自分自身、仕事がしやすくなるもの。 | | | | | | |
| 到達目標 | 卒業年度学生に対し、社会人に必要なビジネススキルを身につけ、就職試験を突破できるようになる。またインターンシップ、就職採用試験の流れについて理解し、全員が今年度インターンシップに行き、希望する企業への就職で内定を獲得することができるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | 4月4日 | 講義 | これからの就職活動について | |
| 2 | 4月11日 | 講義 | インターンシップの流れについて | |
| 3 | 4月15日 | 講義 | 自己分析・業界研究① | |
| 4 | 4月25日 | 講義 | 自己分析・業界研究② | |
| 5 | 5月9日 | 講義 | 履歴書作成 | |
| 6 | 5月16日 | 講義・演習 | 面接（グループ・個人・WEB面接）について | |
| 7 | 5月23日 | 講義 | グループディスカッション | |
| 8 | 5月30日 | 講義 | 合同企業説明会ガイダンス | |
| 9 | 6月20日 | 講義 | 採用試験のビジネスマナー | |
| 10 | 6月27日 | 講義 | ビジネスコミュニケーション（職場での振る舞い）① | |
| 11 | 7月4日 | 講義 | ビジネスコミュニケーション（職場での振る舞い）② | |
| 12 | 7月11日 | 講義 | 筆記試験＆WEBテスト | |
| 13 | 7月18日 | 講義 | 「働くとは」キャリアセンタースタッフより | |
| 14 | 8月22日 | 講義 | 試験 | |
| 15 | 8月29日 | 講義 | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名<br>（英） | 動物の健康管理<br>（Health Management of Animals） | 必修選択 | 必修選択 | 年次 | 3 | 担当教員 | 長嶺 幸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習 | 総時間（単位） | 30<br>2 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 競走馬牧場、乗馬クラブ、総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究所副理事 |
| 授業の学習内容 | 身近な哺乳類について分類や品種、習性や体の特徴などを知ることで正常な状態なのかを知り適正飼育ができるように学ぶ<br>またその動物の病気や飼育環境についても学び飼育に生かす |
| 到達目標 | ・動物について学び適正飼育ができるようになる<br>・動物たちについて理解しようとする、努力ができる<br>・正常を知って異常に早く気づき、適切に報告や対応、検証ができるようになる |
| 評価方法と基準 | 授業内評価：40%　定期試験：60% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 飼養管理に対する責任について理解する | ノート整理とまとめ |
| 2 | ／ | 〃 | モルモットについて理解できる | 〃 |
| 3 | ／ | 〃 | モルモットの管理、デグーについて理解できる | 〃 |
| 4 | ／ | 〃 | デグーの管理、チンチラについて理解できる | 〃 |
| 5 | ／ | 〃 | チンチラの管理、ウサギについて理解できる | 〃 |
| 6 | ／ | 〃 | ウサギの管理、リス科動物について理解できる | 〃 |
| 7 | ／ | 〃 | プレーリードックとジリスについて理解できる | 〃 |
| 8 | ／ | 〃 | プレーリードックとジリスの管理について理解できる | 〃 |
| 9 | ／ | 〃 | シマリスについて理解し管理できる | 〃 |
| 10 | ／ | 〃 | ハムスターについて理解し管理できる | 〃 |
| 11 | ／ | 〃 | ハリネズミについて理解し管理できる | 〃 |
| 12 | ／ | 〃 | フェレットについて理解し管理できる | 〃 |
| 13 | ／ | 〃 | フクロモモンガについて理解し管理できる | 〃 |
| 14 | ／ | 〃 | テスト | 〃 |
| 15 | ／ | 〃 | まとめ | 〃 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | ナチュラルケア（ Natural Care ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 宮崎 みどり |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30（2） | 開講区分 曜日・時限 | 前期 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業、動物ショーの会社に勤務（アニマルトレーナー、イベント企画）後動物系専門学校非常勤講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | マッサージを中心にホリスティックケアを学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 手軽に取り入れることのできるケアを知り、人も動物も心地よくマッサージできるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | ホリスティックケアについて | |
| 2 | ／ | 講義 | 植物療法 各種① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | フラワーエッセンス② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | Tタッチについて | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | マッサージについて① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | マッサージについて② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | マッサージについて③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | マッサージについて④ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 肉球クリーム作り実習 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 音楽セラピーについて | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | マッサージ演習① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | マッサージ演習② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 精油でのマッサージ演習③ | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 授業総括 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 イラストで見る　動物の飼養管理

| 科目名（英） | 比較動物学<br>（ Animal Diversity ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 永山雄一 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 獣医師、仙台市動物管理センター、八木山動物公園、太白保健所、食肉衛生検査所勤務を経て動物系専門学校兼任講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 産業動物の歴史や品種、飼育管理方法、および畜産業など社会の関わりについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 産業動物の歴史、人間との関係、解剖的特性、生理学的特性、主要な品種や特性、現状及び疾病や獣医療、看護法を説明をできる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　　20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 畜産業について | 予習・復習 |
| 2 | | 講義 | 産業動物の福祉① | 予習・復習 |
| 3 | | 講義 | 産業動物の福祉② | 予習・復習 |
| 4 | | 講義 | 牛の歴史、解剖学的特性、生理学的特性 | 予習・復習 |
| 5 | | 講義 | 牛の主要な品種の特性と現状、食性と飼料、飼料管理 | 予習・復習 |
| 6 | | 講義 | 牛に多い疾病、獣医療、看護法、馬の歴史 | 予習・復習 |
| 7 | | 講義 | 馬の解剖学的特性、生理学的特性 | 予習・復習 |
| 8 | | 講義 | 馬の主要な品種の特性と現状、食性と飼料、飼料管理 | 予習・復習 |
| 9 | | 講義 | 馬に多い疾病、獣医療、看護法 | 予習・復習 |
| 10 | | 講義 | 豚の歴史、解剖学的特性、生理学的特性 | 予習・復習 |
| 11 | | 講義 | 豚の主要な品種の特性と現状、食性と飼料、飼料管理 | 予習・復習 |
| 12 | | 講義 | 豚に多い疾病、獣医療、看護法、豚の歴史 | 予習・復習 |
| 13 | | 講義 | 牛、馬、豚のまとめ | 予習・復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | 予習・復習 |
| 15 | | 講義 | 振り返り、解説 | 予習・復習 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 比較動物学<br>（ Animal Diversity ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 永山雄一／長嶺幸介 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（4） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 獣医師、仙台市動物管理センター、八木山動物公園、太白保健所、食肉衛生検査所勤務を経て動物系専門学校兼任講師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実験動物の歴史や品種、飼育管理方法、実験動物との関りや野生動物の分類・展示動物の飼育管理方法などについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 実験動物の目的、意義について理解する。<br>動物種、品種、系統の概念を理解する。<br>代表的な実権動物の飼育管理、本職法を理解する。 実<br>験動物の制御と疾患モデル動物の遺伝学的制御・微生物学的制御について理解する。<br>野生動物や展示動物の飼育管理方法などを理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価　　20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | | 講義 | 実験動物の目的、意義と飼養管理、繁殖法を理解する① | 講義内容の予習・復習 |
| 2 | | 講義 | 実験動物の目的、意義と飼養管理、繁殖法を理解する② | 講義内容の予習・復習 |
| 3 | | 講義 | 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する① | 講義内容の予習・復習 |
| 4 | | 講義 | 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する② | 講義内容の予習・復習 |
| 5 | | 講義 | 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 6 | | 講義 | 疾患モデル動物について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 7 | | 講義 | 実験動物学全般の振り返り | 講義内容の予習・復習 |
| 8 | | 講義 | 野生動物の分類と生物多様性について理解す | 講義内容の予習・復習 |
| 9 | | 講義 | 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 10 | | 講義 | 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 11 | | 講義 | 外来生物の定義、在来生態系に及ばす影響、対策について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 12 | | 講義 | 展示動物の意義と動物園などの役割について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 13 | | 講義 | 動物園などにおける個体・群管理、行動管理と、施設管理について理解する | 講義内容の予習・復習 |
| 14 | | 試験 | 試験 | |
| 15 | | 講義 | 振り返り、解説 | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物看護関連法規<br>（ Viterinariy Laws and Regulations ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 髙山　清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 15<br>（ 1 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 |
| 授業の学習内容 | 動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割補理解する |
| 到達目標 | ・獣医療に関連する法律と愛玩動物看護師の関わりについて理解する。<br>・愛玩動物看護師法の目的・定義などについて理解する。<br>・獣医法・獣医療法の概要について理解する。<br>・公衆衛生行政法規の概要について理解する。<br>・薬事行政法規・家畜衛生行政法規の概要について理解する。 |
| 評価方法と基準 | 筆記試験：100% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 法学総論、各分野・領域に関する法規 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 愛玩動物看護師法 | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 獣医療関連行政法規（獣医師法、獣医療法） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 公衆衛生行政法規（感染症法、狂犬病予防法、その他の関連する法律） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 薬事行政法規（医薬品、医療機器などの品質、有効性及び安全性の確保等に関する法理、その他の関連する法律） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 家畜衛生行政法規<br>（家畜伝染病予防法・その他の関連する法律） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 解説 | |
| 9 | ／ | | | |
| 10 | ／ | | | |
| 11 | ／ | | | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 愛玩動物・適正飼養関連法規Ⅱ<br>（ Animal Welfare and Breeding Regulations Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 髙山　清次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 15<br>（ 1 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、上妻商会代表 |
| 授業の学習内容 | 1年次に学修した内容について、国家試験対策として模擬試験問題演習に取り組む |
| 到達目標 | ・愛護・適正飼養の概念の基本を理解する。<br>・愛護・適正飼養関連行政法規の概要について理解する。<br>・社会福祉行政・環境衛生法規の概要について理解する。<br>・野生動物等に関する法律および条約について理解する。 |
| 評価方法と基準 | 筆記試験：100% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 演習問題<br>動物の愛護及び管理に関する法律 | |
| 2 | ／ | 講義 | 演習問題<br>動物の愛護及び管理に関する法律 | |
| 3 | ／ | 講義 | 演習問題<br>愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律 | |
| 4 | ／ | 講義 | 演習問題<br>身体障害者補助犬法・国際条約と法律 | |
| 5 | ／ | 講義 | 演習問題<br>国際条約と法律・SDGs | |
| 6 | ／ | 講義 | 演習問題<br>国際条約と法律・SDGs | |
| 7 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 解説 | |
| 9 | ／ | | | |
| 10 | ／ | | | |
| 11 | ／ | | | |
| 12 | ／ | | | |
| 13 | ／ | | | |
| 14 | ／ | | | |
| 15 | ／ | | | |

| | |
|---|---|
| 準備学習　時間外学習 | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物外科看護学<br>（ Animal Surgical Nursing ） | 必修選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理の出の周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急などを理解し、実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 創傷の分類とその管理（創傷の種類と治癒過程と管理方法、ドレーンの装着と管理方法） | 講義内容の予習・復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 止血法と包帯法（止血法、出血の種類、管理、緊急的止血、バンデージ、キャスティング） | 講義内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 骨折・脱臼の管理（骨折脱臼の定義との種類、治療）、固定後の動物の管理 | 講義内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 術前手続き及び術前検査（承諾書、インフォームドコンセプト、無菌的処置、無菌操作、病原体） | 講義内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 手術着、タオル・ドレープ類の準備・滅菌法、手術器具の準備と滅菌法 | 講義内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 手術室の機器類（無影灯、電気メス本体等）の準備） | 講義内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 手術室の機器類（器械台の準備、動物のポンジョニング、術野の消毒、手洗い、手術着、手袋の着用） | 講義内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 手術室の機器類（器具、器材の準備） | 講義内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 麻酔処理時における愛玩動物看護師の役割、ASA分類と麻酔リスクの評価、麻酔の知識 | 講義内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 周術期の麻酔（麻酔前の絶食・絶水時期、プロトコールの評価、麻酔前評価、導入） | 講義内容の予習・復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 周術期の麻酔（挿管、維持、麻酔器、人工呼吸器、覚醒） | 講義内容の予習・復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 麻酔時のモニタリング（換気、心血管系、その他） | 講義内容の予習・復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 麻酔記録の作成法、麻酔中の心肺停止への救急対応 | 講義内容の予習・復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | ／ | 講義 | 解説 | 講義を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物外科看護学<br>（ Animal Surgical Nursing ） | 必修選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 60<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理の出の周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急などを理解し、実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 術中補助（手術器具の名称と使用法、法合材の分類と使用法、歯科器具の名称と使用法） | 講義内容の予習・復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 術中補助（直接補助、間接補助）、主な手術 | 講義内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 術後管理（麻酔覚醒後のモニタリング、疼痛管理の意義と方法、術創管理と包帯法） | 講義内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 術後管理（褥瘡の予防と対処法・体位変換など、退院時の注意点と飼い主への説明事項） | 講義内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 救急救命（エマージェンシーの原因と病態について、心肺蘇生法の準備） | 講義内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 講義 | 救急救命（一次救命処置と二次救命処置） | 講義内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 化学的保定に使用する薬物・心肺停止やショックの場合に使用する薬物（鎮静剤、鎮痛剤、麻酔薬、交感神経作動薬、抗けいれん薬、副腎皮質ホルモン剤、抗不整脈薬） | 講義内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 救急時の輸液療法（総輸液量、脱水の判断、基本的な輸液製剤、） | 講義内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 救急時の輸液療法（血漿増量剤、心肺停止時およびショック時の輸液） | 講義内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 救急救命時におけるモニタリング（意識の評価、呼吸のパラメーター、循環のパラメーター） | 講義内容の予習・復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 救急救命時におけるモニタリング（循環のパラメーター、体温の評価、尿産生量の評価） | 講義内容の予習・復習 |
| 12 | ／ | 講義 | リハビリテーションと理学療法の定義、理学療法の重要性、目的 | 講義内容の予習・復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 理学療法の種類と効果、実施前の機能評価表、治療計画の立案、運動療法、姿勢反応、物理療法 | 講義内容の予習・復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | ／ | 講義 | 解説 | 講義を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床看護学各論Ⅱ<br>（ Animal Clinical Nursing detailed exposition Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 上手健太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 60<br>（ 4 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 酪農学園大学獣医学部卒業後、動物病院等勤務を経て南相馬アニマルクリニック院長（獣医師） |
| 授業の学習内容 | 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。 |
| 到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を学び、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する<br>（アレルギー・免疫介在性疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | 代表的な疾患を理解し、検査、処置、治療の概要を理解する<br>（血液・造血器系疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | 救急疾患とその対応を理解し、検査・処置・治療の概要を理解する。<br>（中毒、誤飲誤植、交通事故） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 救急疾患とその対応を理解し、検査・処置・治療の概要を理解する。<br>（外傷、熱中症、熱傷、溺水） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 救急疾患とその対応を理解し、検査・処置・治療の概要を理解する。<br>（感電、眼科疾患、循環器疾患、内分泌疾患） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 救急疾患とその対応を理解し、検査・処置・治療の概要を理解する。<br>（神経疾患、呼吸困難、ショック、アナフィラスキー） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義 | 機能障害別でみる動物看護の視点<br>（口腔系、感覚詭計） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義 | 機能障害別でみる動物看護の視点<br>（外皮計、循環器系、呼吸器系） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 機能障害別でみる動物看護の視点<br>（消化器系、消化器系、泌尿器系） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 機能障害別でみる動物看護の視点<br>（生殖器系、神経系、運動器系） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 機能障害別でみる動物看護の視点<br>（アレルギー・免疫系、血液・造血器系、事例で考える動物看護の実際） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 担がん動物の看護（がんの定義、良性腫瘍と悪性腫瘍、診断的アプローチ） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 担がん動物の看護（治療の選択、動物の看護援助、腫瘍随伴症候群） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物生活環境学<br>（ Animal Living environment） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットのきょういく・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境の在り方を理解します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 動物行動学を踏まえた飼育環境整備の必要性を学び、ペットツーリズム関連施設、ドッグランなどを通して飼い主や地域に及ぼす効果測定や愛玩動物看護師として動物介在教育が安全・安心して実施できることを目指します | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 人とペットのための飼育環境整備の必要性や方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | ペット共生住宅の現状、犬・猫の生活環境の違いを理解し、環境整備・管理の方法を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | ぺとツーリズムの現状と実施方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | ペット同伴施設の環境整備・管理の方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | 動物シェルターや災害時の避難施設の菅ン強整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | 動物の社会科トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 飼育マナーの必要性や目的と歴史・地域における飼育マナーの違いについて理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 地方自治体における飼育マナーに関する条例を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 愛玩動物の種類別に必要とされる飼育マナーとペット保険のしくみと実態について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | ペット関連産業論<br>（ Introduction to the Pet Industry） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（ 2 ） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学びます | | | | | | |
| 到達目標 | ペット関連産業で求められる倫理及び関連法規を理解し、ペット産業の分類や動物取扱業者が遵守すべき設備、飼養・保管方法について理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | ペット関連産業の責任と社会的役割を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義 | ペット関連産業の商取引における関連法規の概要について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義 | ペット関連産業の商取引における関連法規の概要について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 動物の愛護及び管理の法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 動物の愛護及び管理の法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する② | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | ペット関連産業の概要と市場規模を理解する① | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 試験 | ペット関連産業の概要と市場規模理解する② | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 8 | ／ | 講義 | ペット関連産業の現状と課題（ペット産業の分類と動物病院の現状と課題を理解する） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義 | ペット関連産業の現状と課題（動物病院以外のサービス業の現状と課題を理解する） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義 | ペット関連産業の現状と課題（生体販売業の現状とペットショップ、その他のペット産業の現状を理解する） | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物取扱業者の概要について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義 | 動物取扱業者の規制について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義 | 動物取扱責任者としての業務実施のために必要な理事選的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 評価試験 | 試験範囲を勉強し、試験後、見直す。 |
| 15 | ／ | 講義 | 評価試験返却・解説・まとめ | 試験範囲を振り返り、理解を深める。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物外科看護学実習<br>（ Practice of Surgery Animal Nersing ） | 必修選択 | 選択必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 120<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急など動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急などを理解し、実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 講義 | 手術器具の準備、滅菌ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 2 | ／ | 講義 | 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる | 講義内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 手術に必要な機器、器械台を準備できる | 講義内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 講義 | 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 講義 | 麻酔器の各部名称や使用方法を理解し、指示に従って操作できる | 講義内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 講義 | モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる | 講義内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 講義 | 直接補助（器械の受け渡しなど）ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 講義 | 間接補助（無映灯、保温マットの操作ができる） | 講義内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 講義 | 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置の補助ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 講義 | 術後の創傷管理ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 11 | ／ | 講義 | 動物に包帯を装着できる | 講義内容の予習・復習 |
| 12 | ／ | 講義 | 抜糸の補助ができる | 講義内容の予習・復習 |
| 13 | ／ | 講義 | 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる | 講義内容の予習・復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | ／ | 講義 | 解説 | 講義を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物外科看護学実習<br>（ Practice of Surgery Animal Nursing ） | 必修選択 | 選択必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高山ゆい |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義 | 総時間（単位） | 120<br>4 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 動物系専門学校卒業後動物看護師として臨床経験8年 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急など動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、手術の補助、救命救急などを理解し、実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験　80%<br>授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
| 1 | ／ | 実習 | 経口給餌・給餌量計算 | 講義内容の予習・復習 |
| 2 | ／ | 実習 | 包帯・ドレナージ実践 | 講義内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 講義 | 避妊・去勢手術方法（座学） | 講義内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 実習 | 歯科処置実践 | 講義内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 実習 | 歯科処置実践 | 講義内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 実習 | 理学療法 | 講義内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 実習 | 理学療法 | 講義内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 実習 | 救命救急（気管挿管を補助できる） | 講義内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 実習 | 救命救急（心肺蘇生の手順を修得している） | 講義内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 実習 | 救命救急 | 講義内容の予習・復習 |
| 11 | ／ | 実習 | 輸血（クロスマッチ）実践 | 講義内容の予習・復習 |
| 12 | ／ | 実習 | 輸血（クロスマッチ）実践 | 講義内容の予習・復習 |
| 13 | ／ | 実習 | 特殊外科器具 | 講義内容の予習・復習 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強し、試験後見直す |
| 15 | ／ | 講義 | 解説 | 講義を振り返り、理解を深める |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物臨床看護学実習Ⅱ<br>（ Animal Clinical Nersing Practical Traning Ⅱ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 上手健太郎 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>（1） | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |
| 教員の略歴 | 酪農学園大学獣医学部卒業後、動物病院等勤務を経て南相馬アニマルクリニック院長（獣医師） | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する | | | | | | |
| 到達目標 | 動物の臨床看護に必要な知識を学び、動物看護師として業界で活躍する人材になることを目標としている。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：80%　授業態度と参加度：20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 動物看護計画と動物看護記録について理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 2 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 3 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 4 | ／ | 講義 | 症状や入院・治療が動物と家族に及ぼす影響を理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 5 | ／ | 講義 | 看護動物への関りの内容・方法を立案できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 6 | ／ | 講義 | 動物の看護上の問題・ニーズを理解する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 7 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 8 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 9 | ／ | 講義・演習 | 入院動物の管理、アセスメントができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 10 | ／ | 講義・演習 | ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 11 | ／ | 講義・演習 | 栄養チューブの設置の準備や流動食の調整ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 12 | ／ | 講義・演習 | 褥瘡をもつ動物の看護ができる | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 13 | ／ | 講義・演習 | 事例による動物看護過程の展開記録を作成する | 講義範囲を予習・復習する。 |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | 試験範囲を勉強する。 |
| 15 | ／ | 講義 | 振り返り | 試験後、見直す。 |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名（英） | 動物愛護適正飼養実習Ⅲ<br>（ Animal Weifare and Breeding Practice Ⅲ ） | 必修選択 | 必修・選択必修・選択等 | 年次 | 3 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間（単位） | 30<br>1 | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 動物の飼養管理に関する基本てな取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する |
| 到達目標 | 学校飼育犬や飼育猫の飼養管理を通して、知識の実践を図る |
| 評価方法と基準 | 定期試験80％／出席率20％ |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習　時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 実習 | 動物種に応じた安全なハンドリングができる | |
| 2 | ／ | 実習 | 動物を安全に散歩・運動させることができる | |
| 3 | ／ | 実習 | 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる | |
| 4 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 5 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 6 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 7 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 8 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 9 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 10 | ／ | 実習 | 基本的なグルーミングを実施できる | |
| 11 | ／ | 実習 | 動物愛護管理センターの活動を理解する | |
| 12 | ／ | 実習 | 動物取扱業に指導すべき内容について理解する | |
| 13 | ／ | 実習 | 動物取扱業における顧客などへの対応について実践することができる | |
| 14 | ／ | 試験 | 試験 | |
| 15 | ／ | | 振り返り | |
| 準備学習　時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| 科目名<br>(英) | 動物看護総合実習Ⅲ<br>( Practical Training Ⅲ ) | 必修<br>選択 | 選択必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 関口順子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科・コース | 動物看護師専攻 | 授業<br>形態 | 講義・演習 | 総時間<br>(単位) | 90<br>(3) | 開講区分<br>曜日・時限 | 前期・後期・通年・集中等 |

| | |
|---|---|
| 教員の略歴 | 東京農業大学農学部畜産学科卒業後動物系専門学校勤務、認定動物看護師資格所持、専任教員 |
| 授業の学習内容 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、電話対応、問診、カルテの作成、整理など主に受付業務を中心に必要な知識、技術を身につける。また、医療チームの一員としての言動、立場に対する責任感を認識する。<br>さまざまな職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。 |
| 到達目標 | 動物病院での実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践できる。 |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 50%<br>【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、研修日報: 50% |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ／ | 講義 | 実習オリエンテーション<br>「動物看護総合実習」の概要・目的を理解できる。 | 実習準備 |
| 2 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 3 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 4 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 5 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 6 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 7 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 8 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 9 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 10 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 11 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 12 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習 |
| 13 | ／ | 演習 | 動物病院での実習・実践 | 実習内容の予習・復習・まとめ |
| 14 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>学んだことをもとにレポートを作成できる | 実習内容のまとめ |
| 15 | ／ | 演習 | 実習報告会<br>レポートをもとに学内で報告することができる | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □